



前田道路株式会社
代表取締役社長

今泉 保彦

リーディングカンパニーとして
駆け抜けることができた100年への感謝。
「ともに、未来に続く道を。」
これからの100年も皆様と。▶▶▶▶▶

はじめに

ステークホルダーの皆様には、平素より当社の事業活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

はじめに、令和6年能登半島地震により被害に遭われた皆様に、心からお見舞い申し上げます。当社はインフロンティアグループの一員として、公共インフラ等の道路復旧工事のほかに、仮設施設の整備に取り組んでおります。引き続き、被災地の暮らし・生活の再建に向けて最大限の努力をしております。

地政学的リスクを背景とした原油価格の上昇と円安基調により厳しい事業環境が続いておりますが、長年にわたり培ってきたお客様からの信頼と環境への取り組みなどが評価されたことで、事業計画の達成につながりました。

今後も原材料価格の高騰や人手不足などの課題はありますが、「人と環境にやさしい道づくり」を持続するとともに、優れた技術と品質・サービスの提供により、皆様から選ばれる会社として、地域社会の発展、豊かな生活向上に邁進してまいります。

新しい未来への挑戦

「人こそが会社の財産=人財」という考えから、建設業界にも適用された時間外労働規制への対応はもとより、働き方改革の一環として週休2日を確保するなど、道路業界のリーディングカンパニーとして、ワークライフバランスが確保された真に魅力的な職場をつくり上げることに注力しています。当社に集う仲間たちから、さらに多くのチャレンジを引き出すことができる好循環を生み出すべく、全社員が一丸となって取り組んでいく所存です。

ライフスタイルにあわせた多様な働き方やダイバーシティの浸透、エンゲージメントサーベイ、自己申告制度による丁寧なコミュニケーションを図り、プライベートを大切に働ける環境を整備していくことで、全社員が失敗を恐れず、新しい未来への挑戦を続けられるものと考えます。

さらに今後の成長に向けては、ITツール活用やDX・GXなどを積極的に進め、体質改善を図り、既存事業の強化と新しい成長分野への進出も視野に入れる必要があると考えています。環境や安全に配慮し、防災・減災に向けた製品や技術の開発など、新たな収益基盤の確立を目指します。

リーディングカンパニーとしての使命

当社の事業活動において、「脱炭素」への取り組みは最重要課題であると認識しています。業界の先駆者として、2024年4月より全拠点にRE100対応のCO₂フリー電気を導入、また、環境に配慮した中温化合物を出荷できる拠点を拡充しています。さまざまな施策により業界を牽引し、脱炭素への取り組みを一気に加速させていきます。2023年度には、バイオ重油の製造・販売の子会社である、日本バイオフューエル株式会社が稼働を開始し、社内合材工場へのバイオ重油の供給を始めました。今後、低炭素エネルギーへの転換としてバイオ重油の製造を拡大し、社外向けの体制も確立することで、社会全体での脱炭素化にも貢献してまいります。このほか、カーボンニュートラルを目指した水素・アンモニア燃料の活用、CO₂の固定化技術によるカーボンネガティブへの研究開発を始めています。

これら「脱炭素」への取り組みは、リーディングカンパニーの使命という枠を超え、皆様と手を取り合い、その先の未来へ歩み続けるための持続的な挑戦であると考えております。

持続可能な社会に向けたイノベーション

SDGs(持続可能な開発目標)達成のためには、SDGs17の目標の中から当社の活動とSDGsにおける影響領域の関係を整理し、適切な優先課題(目標やターゲット)を特定することと、その社会・地球への影響力を把握することが重要となります。また、建設の領域を超えて化学や生物など、多様な領域に関わりイノベーションを起こすことが、社会課題の解決につながっていきます。その一例として、当社では、少子高齢化、働き手不足、地方の過疎化問題という社会課題の解決に向け、道路包括管理に重点的に取り組んでいます。今後はさらに、ビッグデータを活用したシステム開発・実装により、持続可能な道路管理に挑戦してまいります。

当社は、2025年3月、創業100周年という大きな節目を迎えます。次の100年に向けて、さらなる事業基盤の強化を図り、豊かな地域社会の発展に貢献するため、グループ事業会社との連携を強化し、グロース・ワン・チームとして人と環境を大切に事業活動を実践していきます。そして、人と未来を結ぶ道を切り拓くために、これからの100年を皆様とともに歩んでまいります。